

# チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



## 特別支援教育の現状と課題（中学校編）



- ・特別支援学級に在籍している生徒の「個別の指導計画」は作成しているが、通常の学級に在籍している生徒の「個別の指導計画」が作成されていない。
- ・特別支援教育はすべての生徒の教育であるという認識が薄く、特別支援学級の生徒の教育だけという考えが強い。
- ・発達障害の生徒の困り感が理解できていないため、学習・生活上のつますきは、本人の努力不足、わがまま、意欲の低下であるという誤った見方をしている。
- ・校内支援体制が構築されていないため、支援が必要な生徒の情報を全校で共通理解できていない。
- ・校内で役割分担がされておらず、特別支援教育コーディネーター任せになっている。
- ・専門家支援チームや特別支援学校センター的機能による相談・支援活動等、地域資源の存在と活用の仕方が分からない。
- ・支援を必要としている生徒がいた場合、保護者へのアプローチの仕方が課題となっている。（学校と保護者との思いに温度差がある）
- ・支援が必要な生徒の情報をどれくらい高等学校に伝えたらよいか難しい。
- ・特別支援教育の動向や発達障害の理解等に関する研修を受ける機会が少ない。

## 発達障害のある子どもの学習支援 PART1

### ○授業を始める前のポイント

#### （１）教室環境を整える

- ・黒板付近の掲示物を最小限にしたり、授業に関係ない物は目隠しをしたりして、刺激を減らす。（黒板をいつもきれいにする！）
- ・机の列が乱れていたり、ゴミが散らかっていたりする状態は、授業への集中の妨げになるので、整理された環境を心掛ける。
- ・持ち物の置き場や整理の仕方を明示する。



#### （２）学習環境を確認する

- ・授業に必要な教科書やノートなどが机に出揃っていることを確認し、スタートを揃える。授業内容に関係のないものを置かない等の約束と確認は、授業への集中やルールを守る習慣につながる。（もちろん、教卓にも余計な物を置かない！）
- ・支援が必要な子どもの座席は、学級の雰囲気や支援員の有無によって異なる。



〈支援を必要とする子どものそばに座る子ども〉

- ①対象児と関係が良好な子～理解のある子 優しく手助けできる子お手伝いが好きな女の子
- ②刺激の少ない子～あまり口出ししない子 自分のことがちゃんとできる子
- ③しっかりした子～ちょっかいをかけられても相手にしない子 自分の気持ちを言葉で伝えられる子